

2006年3月中間期
決算資料
(2005年4月～2005年9月)

東洋合成工業株式会社

■ 目次

- | | |
|-------------------|---------|
| 1. 2006年3月中間期決算概要 | P 3~15 |
| 2. 2006年3月期業績予想 | P 16~20 |
| 3. 各事業の今後の展望 | P 21~30 |

1. 2006年3月中間期 決算概要

■ 2006年3月中間期決算概要

(単位：百万円)

	2005年3月 中間期	2006年3月 中間期	増減額
売上高	6,038	6,126	88
感光性材料	4,186	4,029	△ 156
化成品	1,112	1,287	175
ロジスティック	740	809	69
営業利益	1,121	658	△ 463
感光性材料	741	275	△ 466
化成品	143	108	△ 35
ロジスティック	236	274	38
経常利益	948	570	△ 377
当期純利益	608	354	△ 253
設備投資額	1,516	1,297	△ 219
減価償却費	559	783	223
研究開発費	242	321	79

期首 業績予想	予実差
6,000	126
3,962	67
1,281	6
757	52
980	△ 322
574	△ 299
173	△ 65
233	41
830	△ 260
490	△ 136

■前年同期比・計画比の主なポイント

(単位：百万円)

	2005年3月 中間期	2006年3月 中間期	増減額
売上高	6,038	6,126	88
営業利益	1,121	658	△ 463
経常利益	948	570	△ 377
当期純利益	608	354	△ 253

- ①減価償却費の増加
- ②たな卸資産廃棄損の発生
- ③研究開発費の増加

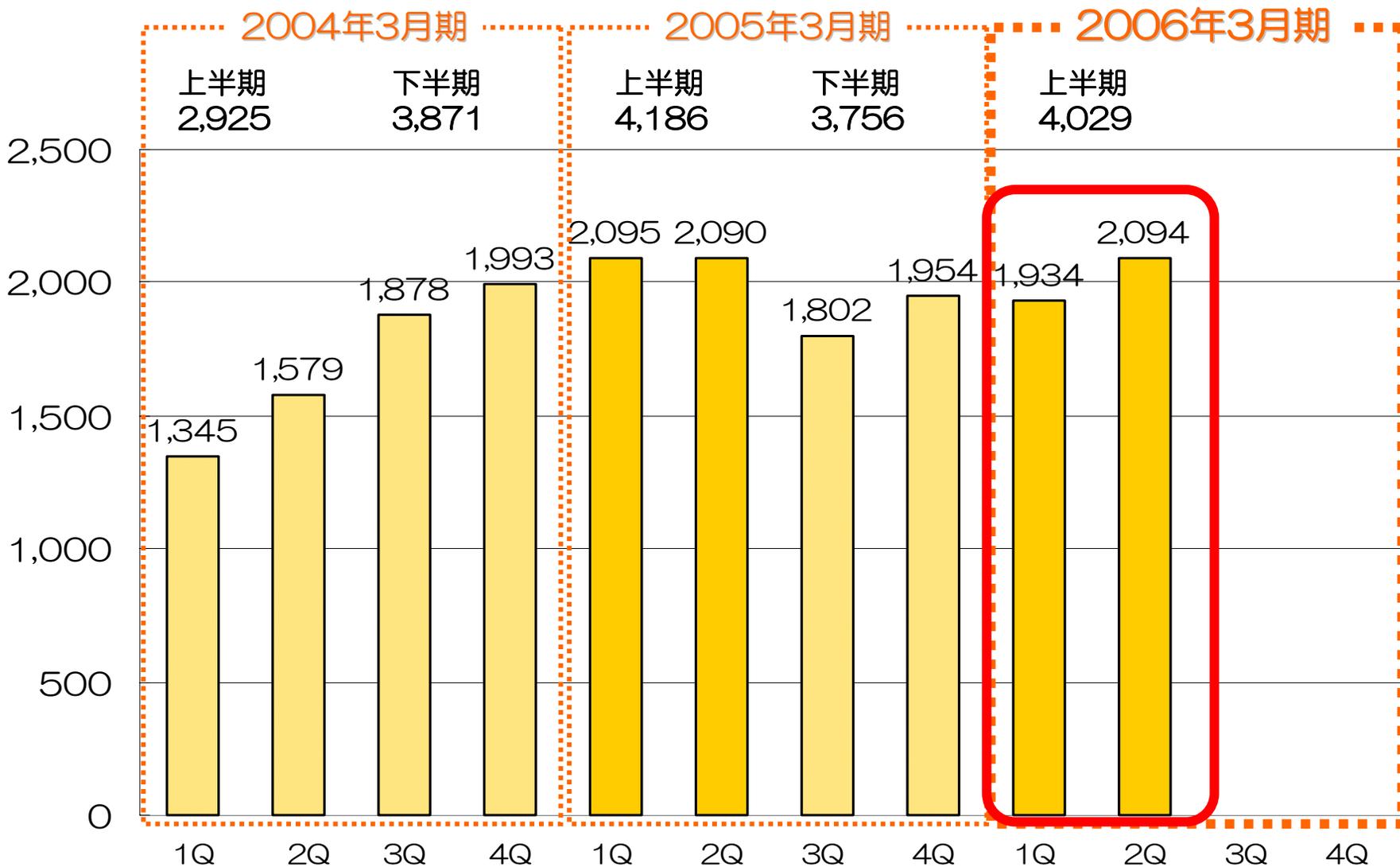
(単位：百万円)

	期首予想	2006年3月 中間期	増減額
売上高	6,000	6,126	126
営業利益	980	658	△ 322
経常利益	830	570	△ 260
当期純利益	490	354	△ 136

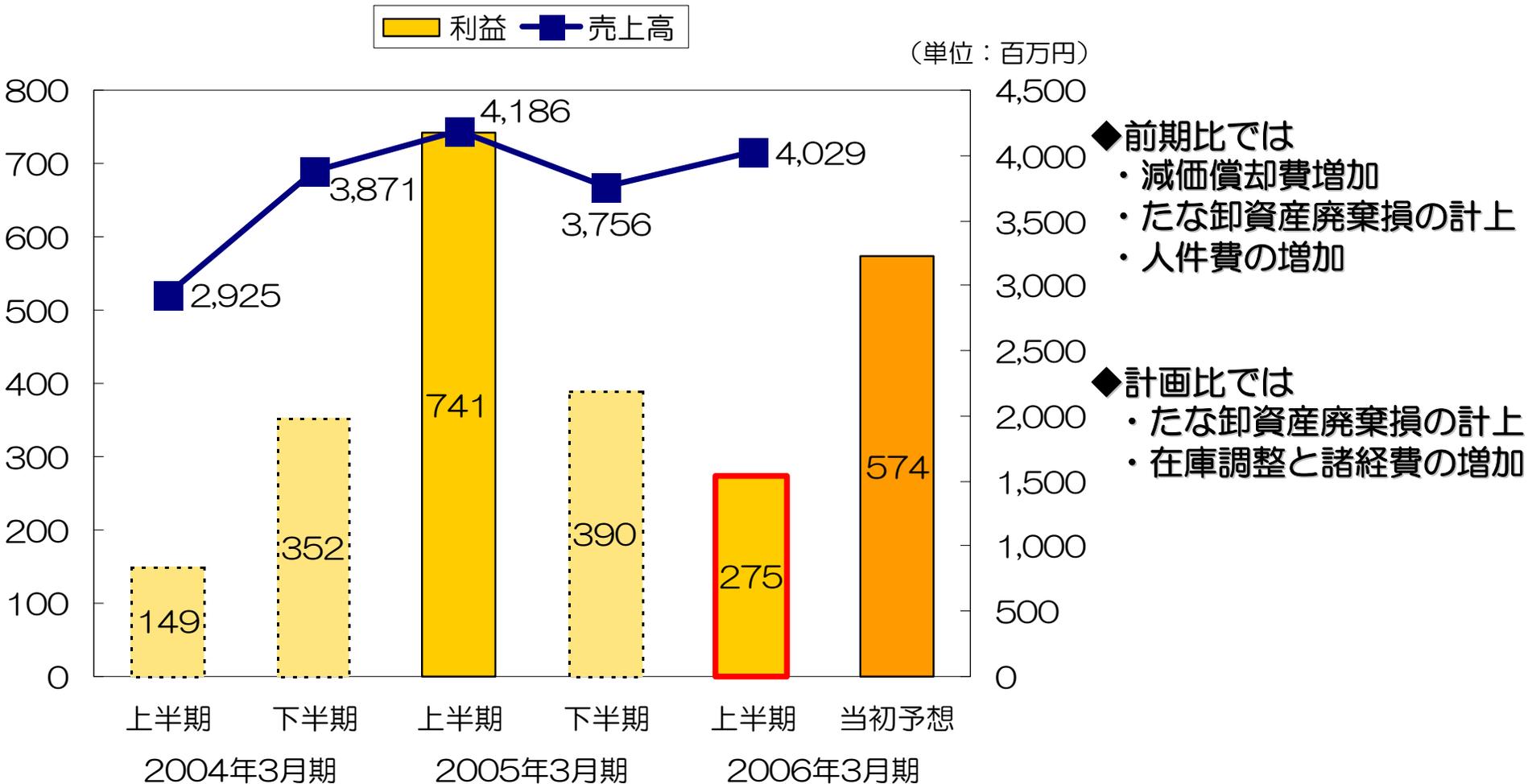
- ①たな卸資産廃棄損の発生
- ②香料部門において中国品との価格競争による収益悪化

■感光性材料事業（売上高）

（単位：百万円）

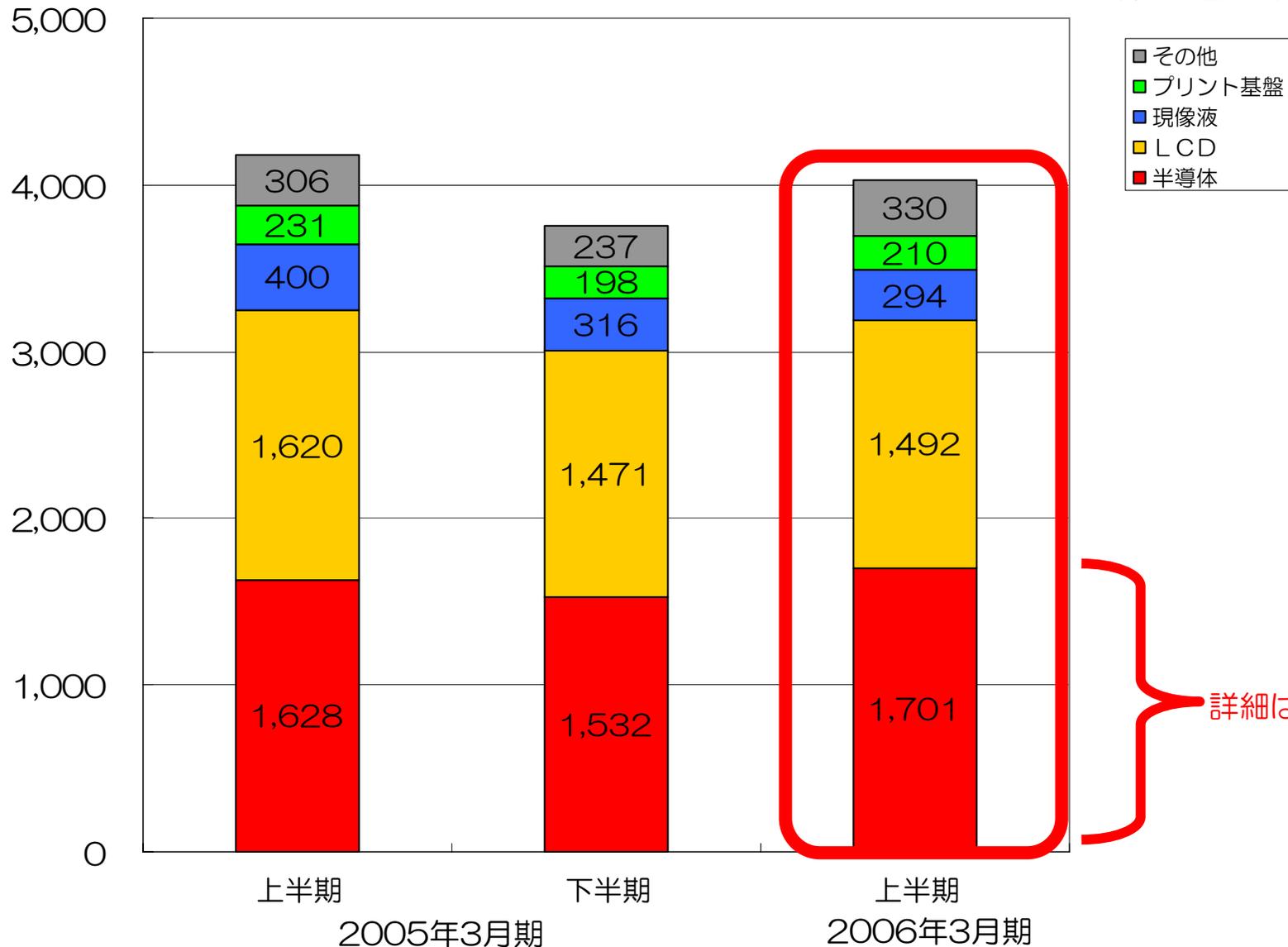


■感光性材料事業（営業利益）

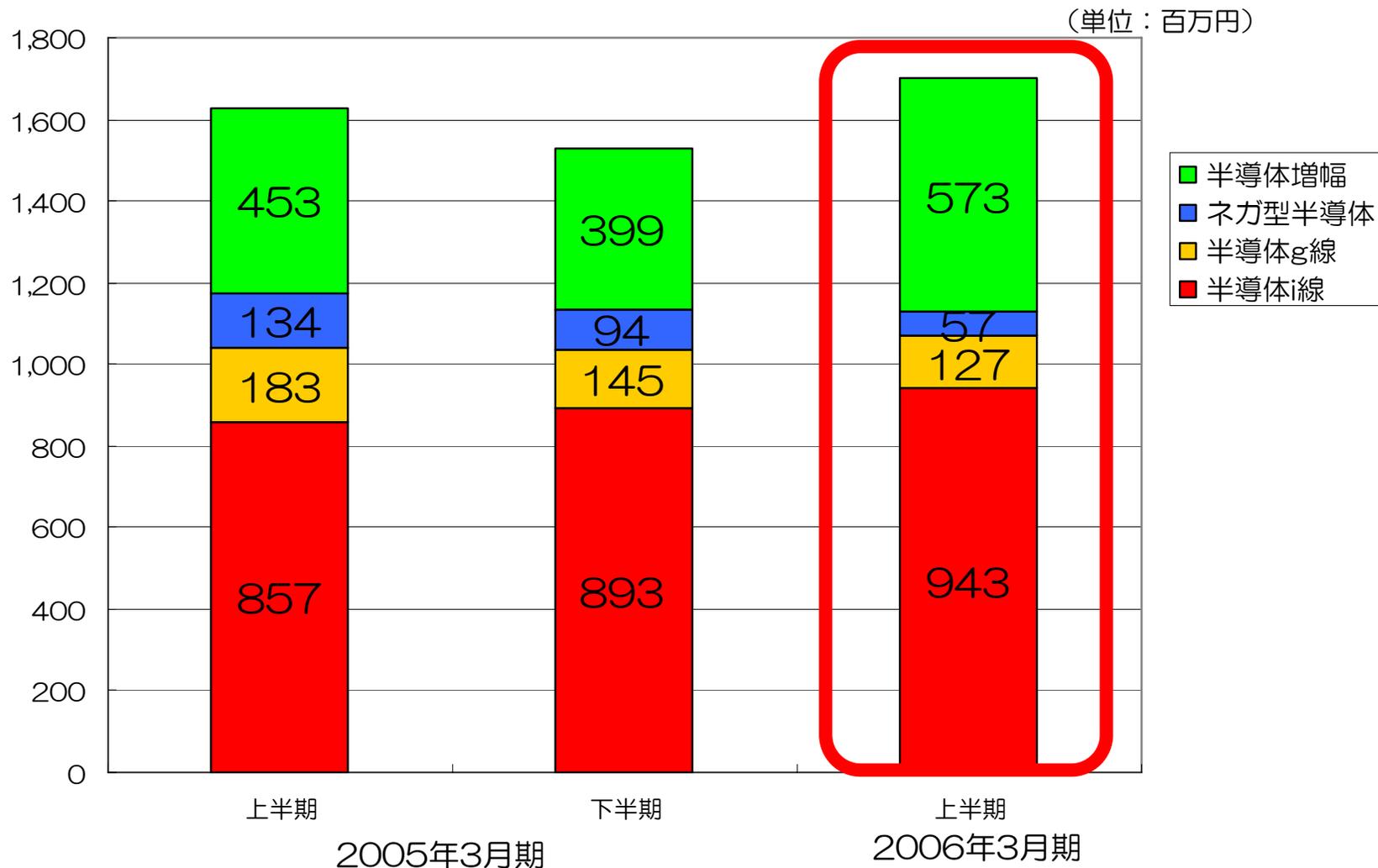


■ 用途別売上高①（感光性材料事業）

（単位：百万円）



■用途別売上高② (半導体詳細)

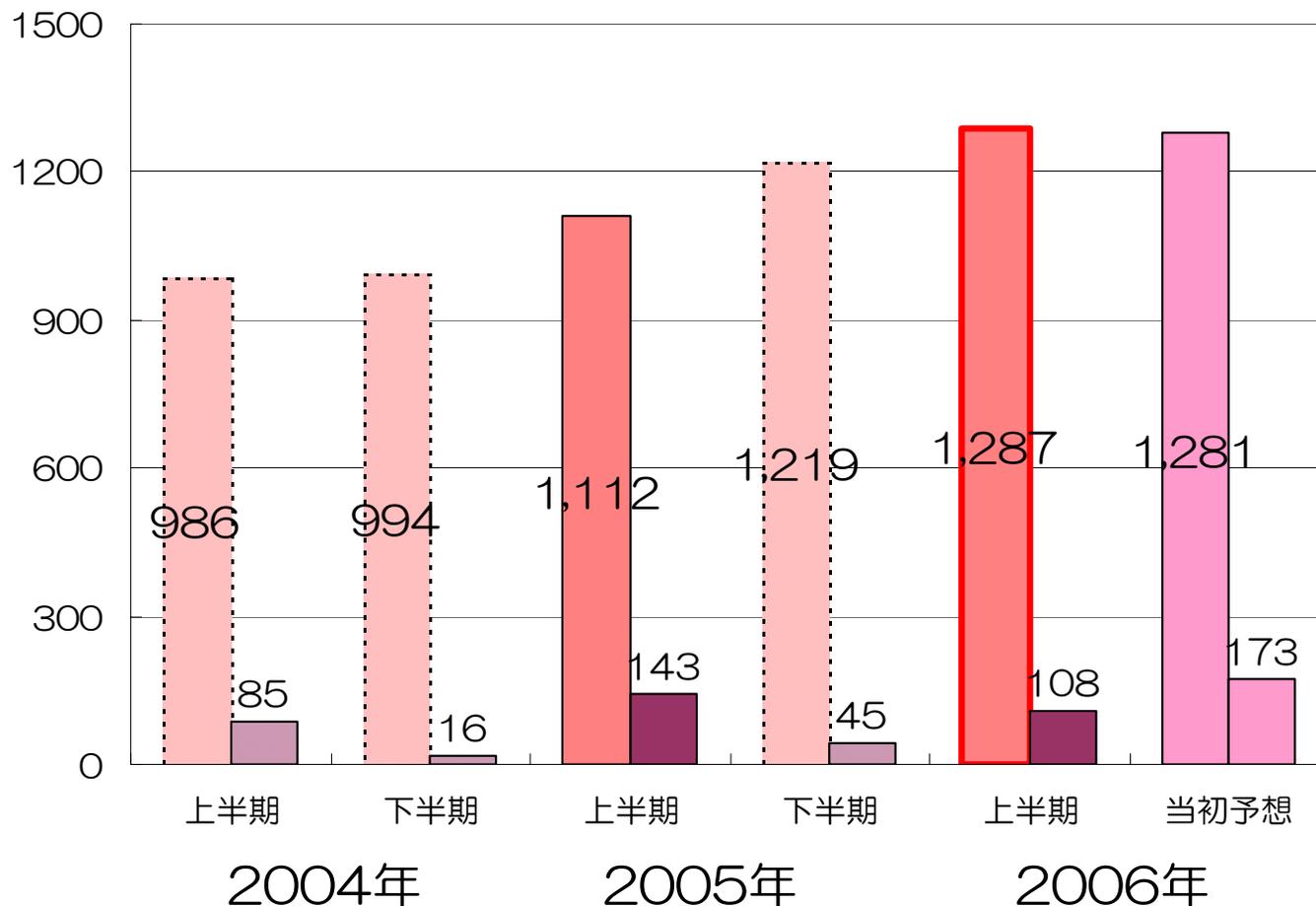


※半導体増幅にはPAG、KrF、ArF用半導体が含まれております

■ 化成品事業部（売上高・営業利益）

■ 売上 ■ 営業利益

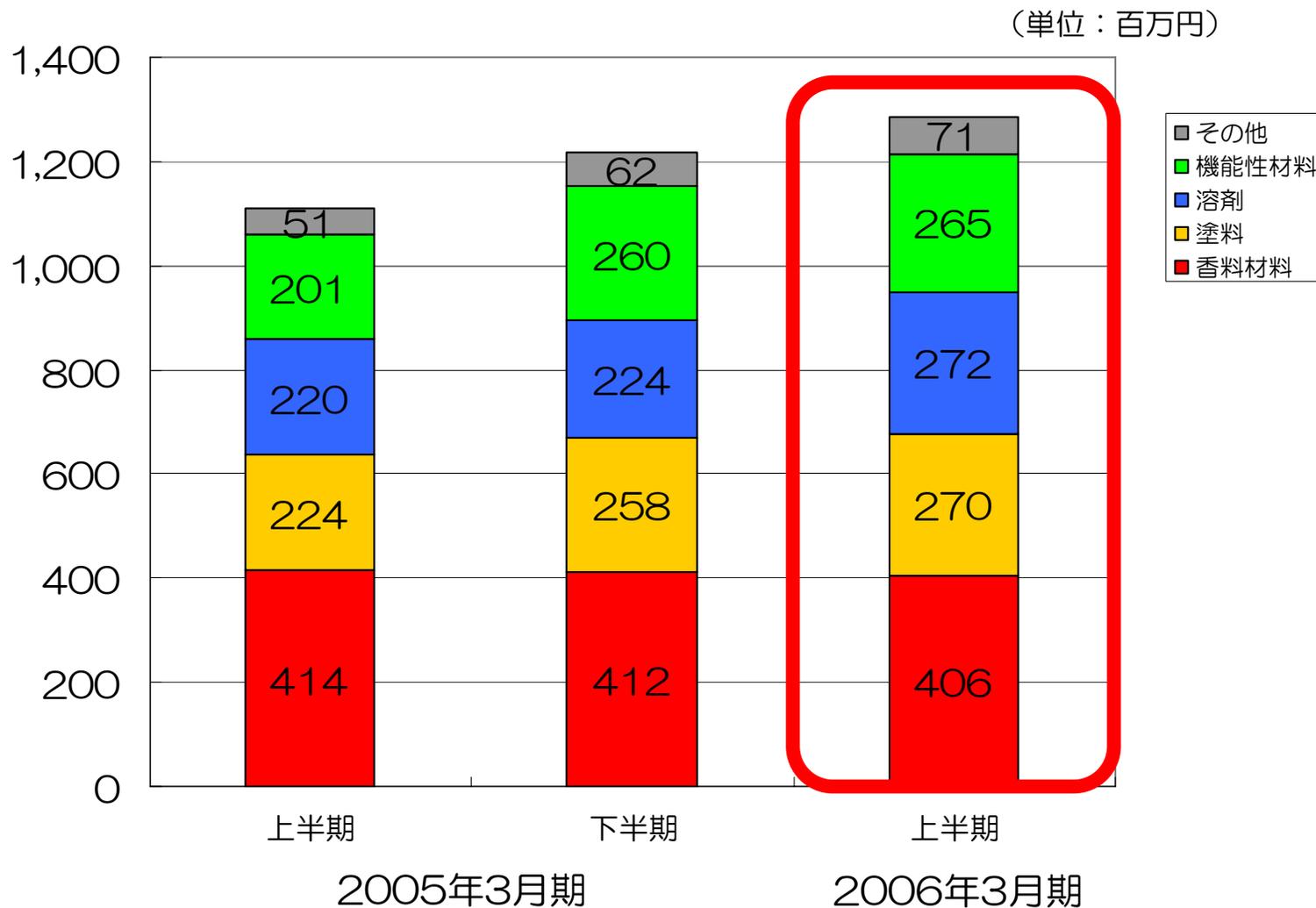
（単位：百万円）



◆ 売上高
 ・ 新製品開発と積極的な営業展開で堅調に推移

◆ 利益
 ・ 中国品との価格競争により収益悪化

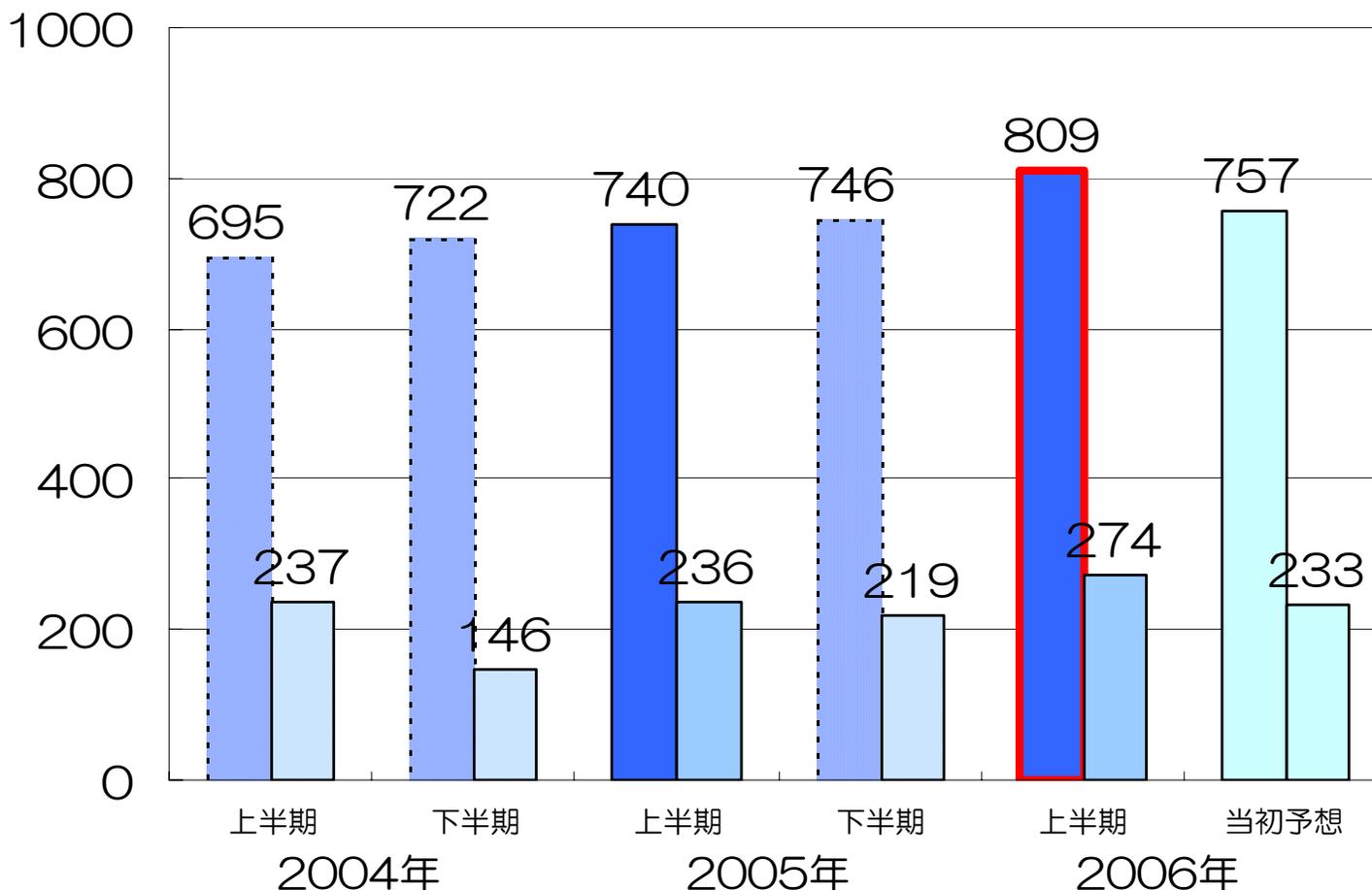
■用途別売上高（化成品事業）



■ロジスティック事業（売上高・営業利益）

■売上 ■営業利益

（単位：百万円）



◆売上高・利益
高稼働率が続き、
好調に推移

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2005年 3月中間期	2006年 3月中間期	増 減 額
売上高	6,038	6,126	88
売上原価	4,100	4,539	439
売上総利益	1,938	1,587	△ 350
販管費	816	928	112
営業利益	1,121	658	△ 463
営業外収益	38	39	1
営業外費用	211	126	△ 84
経常利益	948	570	△ 377
特別利益	28	—	△ 28
特別損失	10	14	3
税引前当期純利益	966	556	△ 410
税金費用	357	201	△ 156
当期純利益	608	354	△ 253

POINT1

減価償却費の増加やた
な卸資産廃棄損の計上

POINT2

研究開発費や諸経費
の増加

POINT3

たな卸資産評価損を
売上原価へ計上

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2005年 3月期	2006年 3月中間期	増減額
流動資産	8,162	8,909	747
現金預金	1,240	1,414	174
売上債権	2,762	3,135	373
棚卸資産	3,806	4,090	284
その他	352	269	△ 83
固定資産	14,943	15,492	549
有形固定資産	13,908	14,422	514
無形固定資産	192	178	△ 14
投資その他の資産	843	892	49
資産合計	23,105	24,402	1,297
流動負債	9,976	11,704	1,728
仕入債務	1,893	1,809	△ 84
短期借入金	5,199	7,880	2,681
その他	2,883	2,013	△ 870
固定負債	5,415	4,711	△ 704
長期借入金	4,465	3,728	△ 737
その他	950	983	33
負債合計	15,391	16,416	1,025
資本合計	7,714	7,986	272
負債及び資本合計	23,105	24,402	1,297

POINT1

設備資金を借入金で対応したため。

■ キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

科 目	2005年 3月中間期	2006年 3月中間期
営業活動によるCF	951	99
税引前当期純利益	966	556
減価償却費	559	783
引当金の増減額	22	59
売上債権の増減額	△ 351	△ 372
たな卸資産の増減額	22	△ 283
仕入債務の増減額	116	△ 83
その他	△ 378	△ 561
投資活動によるCF	△ 151	△ 1,739
財務活動によるCF	△ 687	1,864
現金及び現金同等物の増減	111	225
現金及び現金同等物の中間期末残高	607	893

POINT1

利益の減少とたな卸
資産の増加

POINT2

有形固定資産取得

POINT3

借入金の増加

2. 2006年3月期 業績予想

■業績予想

(単位：百万円)

	2005年 3月期実績	2006年 3月期予想 (11/28修正)	増減額
売上高	11,760	13,000	1,239
感光性材料	7,942	8,730	788
化成品	2,331	2,700	369
ｼﾞｽｯｸ	1,486	1,570	84
営業利益	1,775	1,573	△ 202
感光性材料	1,131	867	△ 264
化成品	188	215	27
ｼﾞｽｯｸ	455	491	36
経常利益	1,545	1,335	△ 210
当期純利益	985	780	△ 205

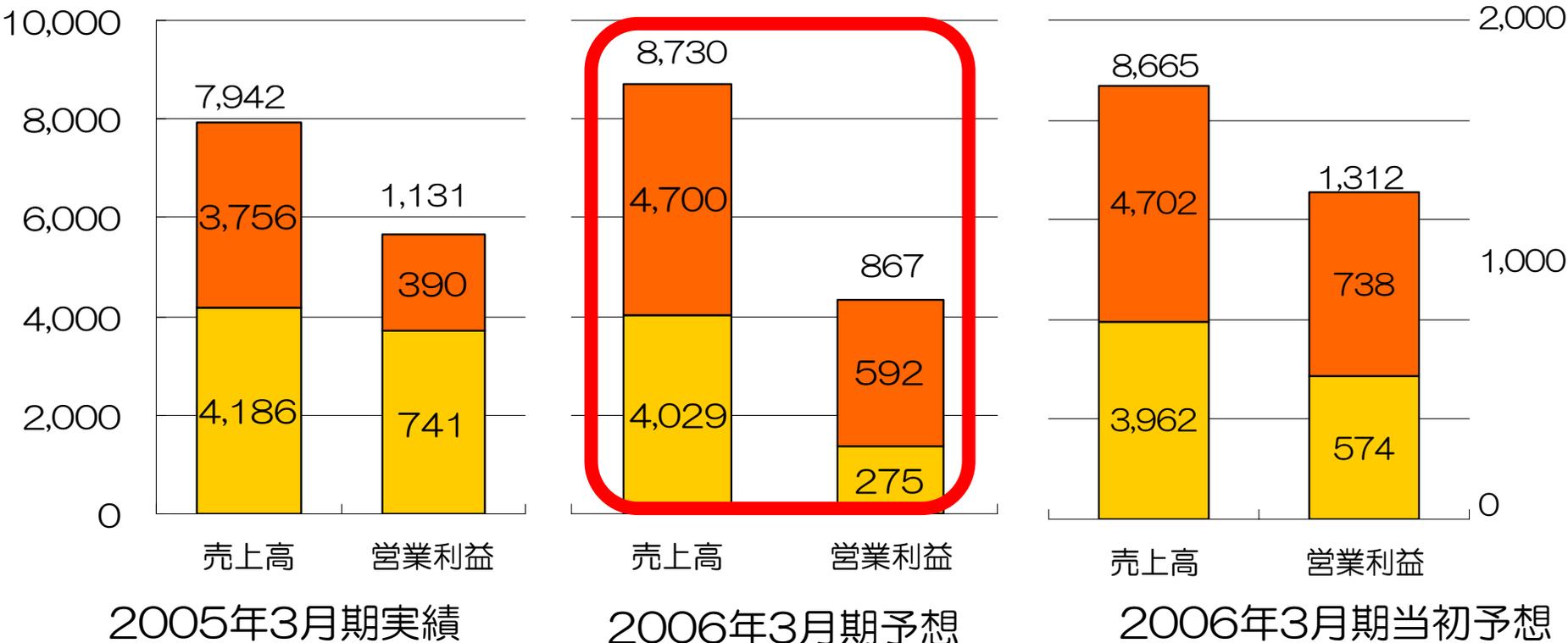
	2006年 3月期当初予想	増減額
	13,000	0
	8,665	65
	2,813	△ 113
	1,520	50
	2,160	△ 587
	1,312	△ 446
	397	△ 183
	449	42
	1,860	△ 525
	1,100	△ 320

設備投資額	3,402	4,000	598
減価償却費	1,252	1,800	548
研究開発費	520	600	79

■業績予想（感光性材料事業）

■ 上半期 ■ 下半期

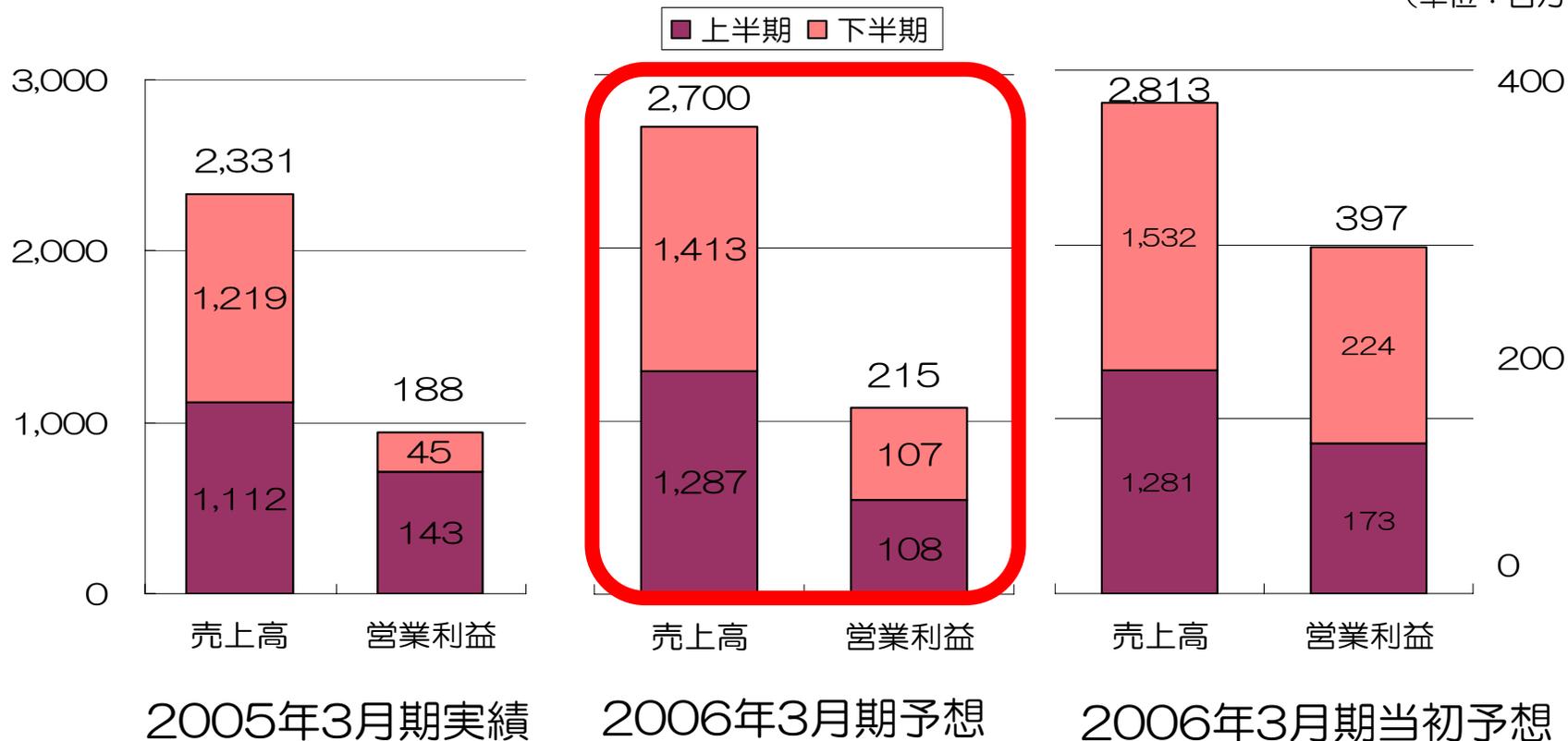
（単位：百万円）



- ◆売上高は、当初予想どおり順調
- ◆営業利益は、販売先からの価格値下げ要請や、諸経費の増加等で当初予想を下回る見込み。

■業績予想（化成品事業）

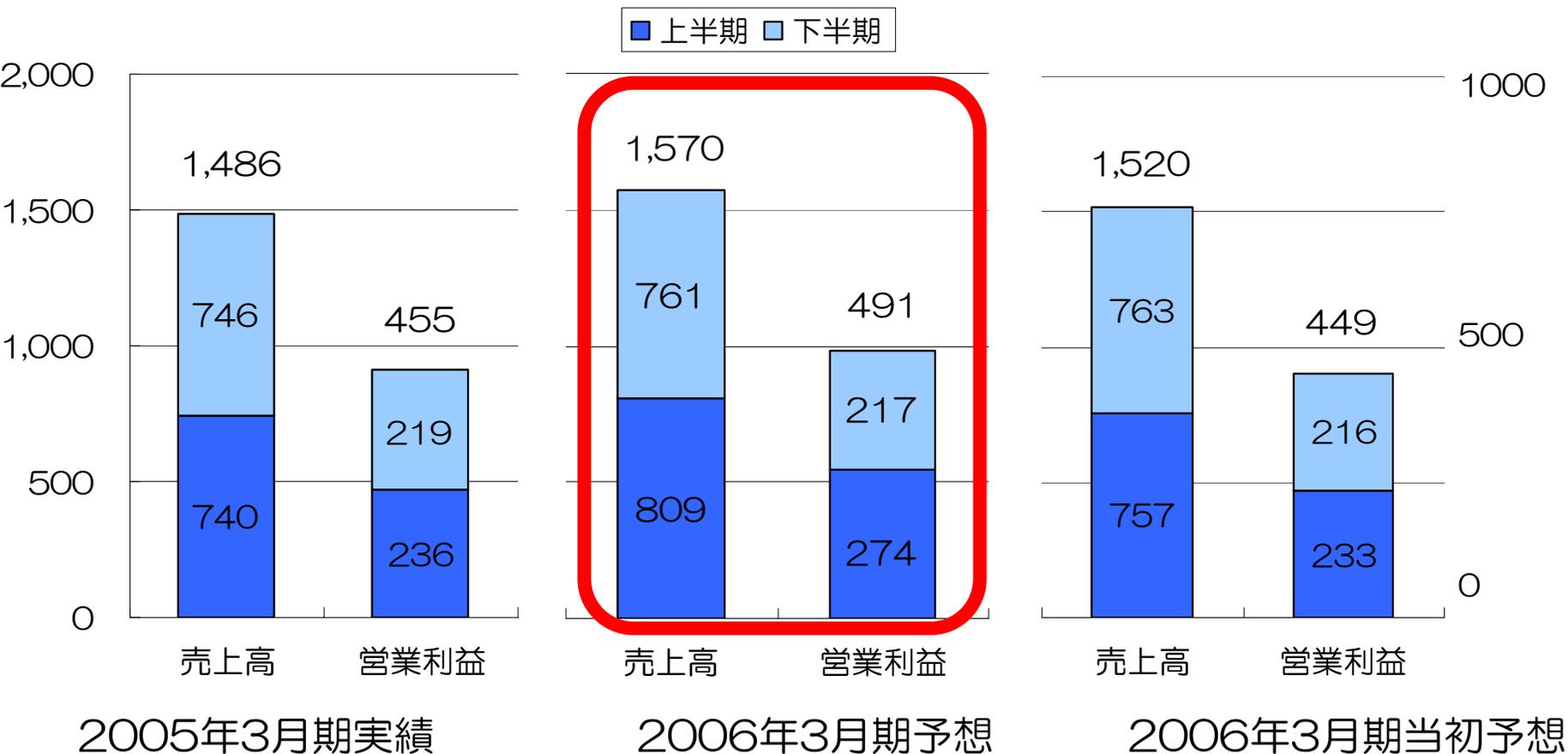
（単位：百万円）



◆中国品との価格競争激化等により、売上・利益ともに当初予想より下回る見込み。

■業績予想（ロジスティック事業）

（単位：百万円）



◆高稼働率が続き、売上・利益ともに順調に推移する見込み

3. 各事業の今後の展望

■感光性材料事業

◆半導体市場の拡大

～在庫調整終了→成長トレンドへ～

◆半導体の微細化進捗

～g線→i線→KrF→ArF～

◆液晶市場の拡大

～液晶テレビを中心としたデジタル家電の市場拡大～

◆価格は低下傾向へ

◆イオン液体・電解液の市場拡大

～リチウムイオン二次電池などの次世代電池～

当社の対応

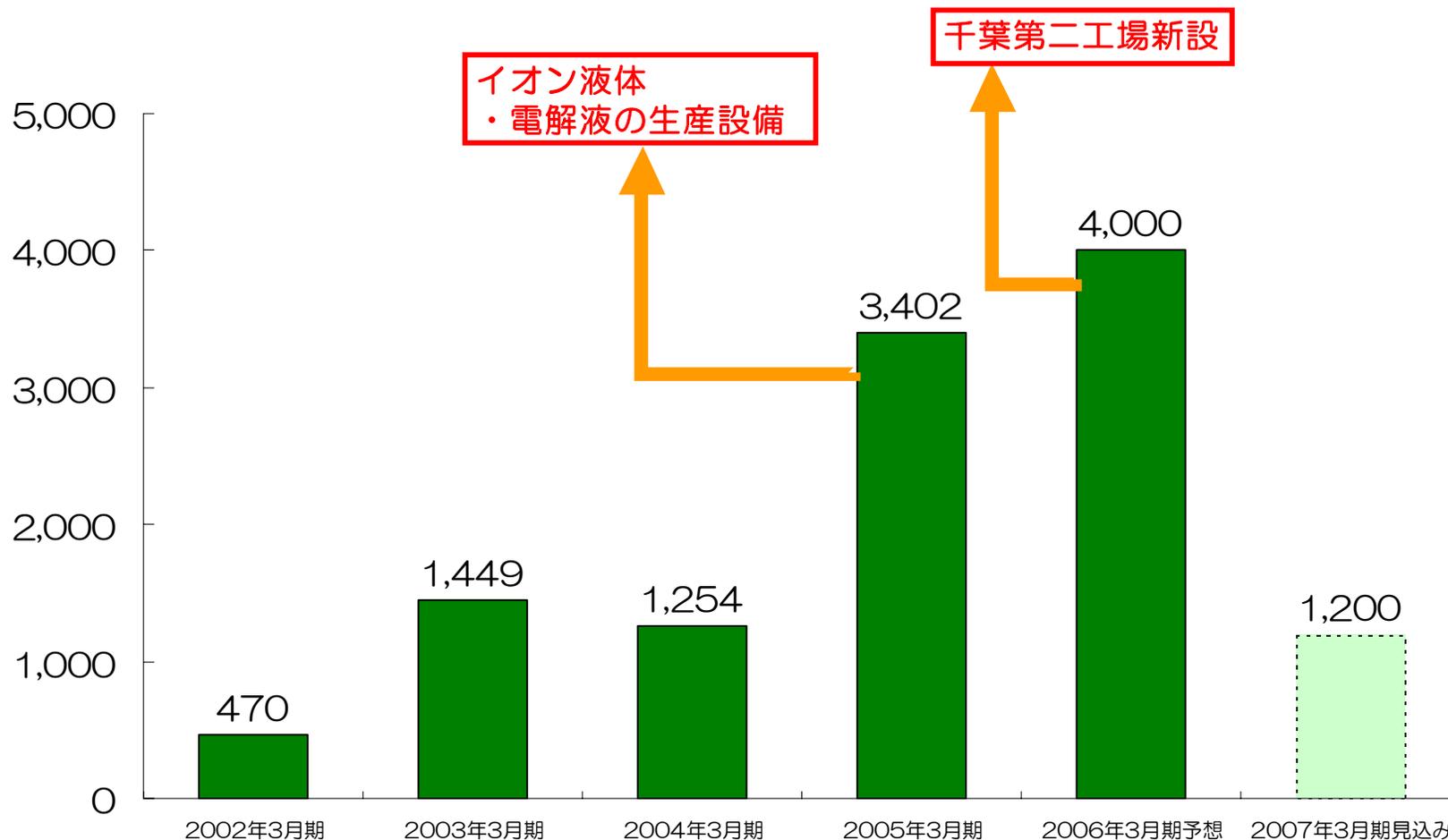
◆設備投資の実施

～生産能力拡大と新製品生産設備～

◆研究開発の強化

■ 設備投資①（設備投資の推移）

（単位：百万円）



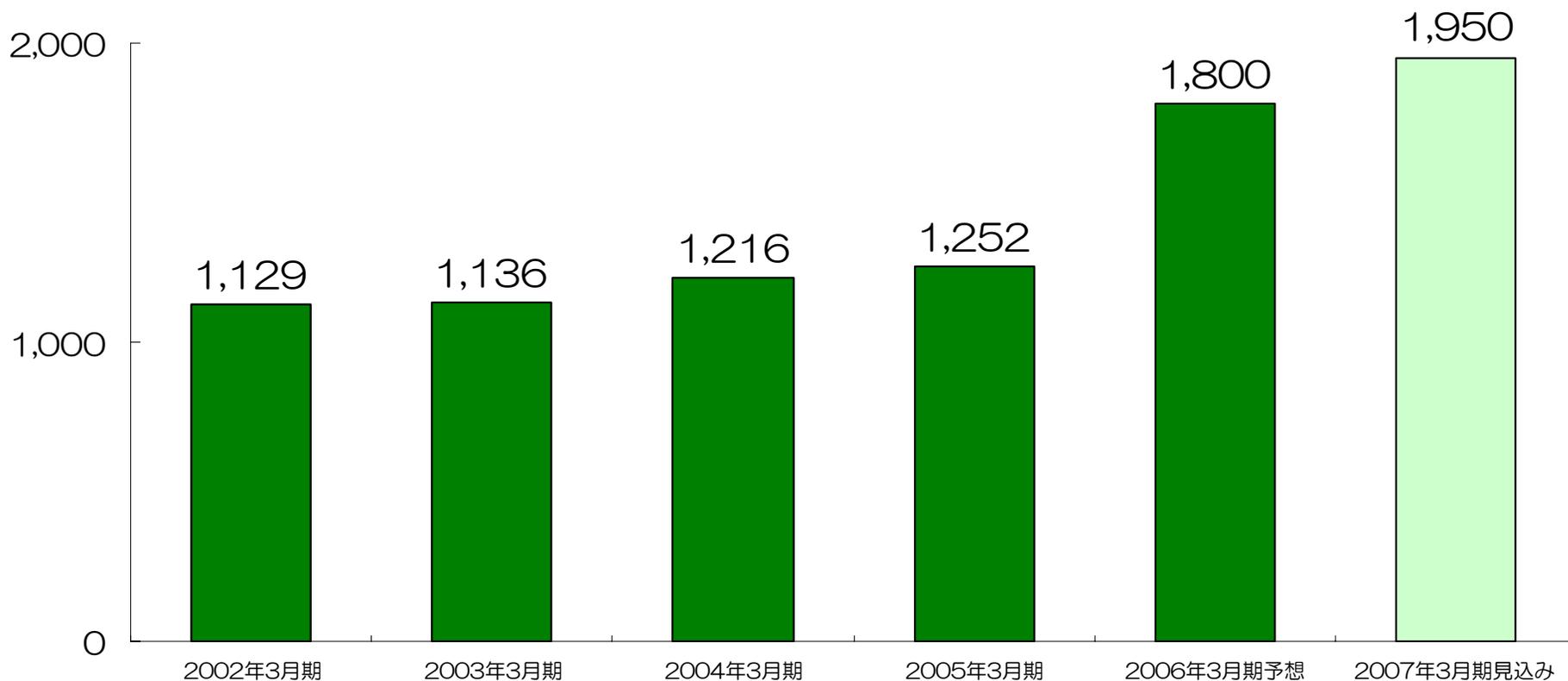
（注）上表の設備投資額は会社全体の設備投資額です。（以下同じ）

■設備投資②（設備投資の目的）

	2005年3月期	2006年3月期予想
設備投資	3,402百万円	4,000百万円
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン液体、電解液の量産設備 ・A r F 増産設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉第二工場の新設 ・A r F 増産設備
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のイオン液体・電解液市場拡大をにらんだ量産設備の新設 ・A r F の需要増加に対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・感光性材料（NAC-5）生産設備の増強 ～現在の生産能力の2倍～ ・A r F の需要増加に対応

■設備投資③（減価償却費の推移）

（単位：百万円）



■設備投資④（減価償却費の特徴）

償却期間が短く、定率法を採用

	2005年3月期	2006年3月期予想
設備投資額	3,402百万円	4,000百万円
うち償却期間6～8年の設備投資額	1,124百万円	2,503百万円

例. A機械装置 取得価額1,350百万円 償却7年

（単位：百万円）

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
償却割合	31%	22%	16%	12%	8%	6%	5%
減価償却費	378	272	195	141	101	73	52

■ 化成品事業

◆ 香料

- ◆ 中国品との競争激化
- ◆ オランダ・ロッテルダムに物流拠点設置（2005年4月）
⇒ 世界香料メーカートップ3との取引拡大、
4位以下企業との新規取引開始を目指す
- ◆ 新製品の開発と生産、営業活動の強化
⇒ New Process 製品を2006年度中に売上2億円増を目指す。

◆ グリーンケミカル

- ◆ 溶剤回収事業の成長
- ◆ VOC回収リサイクル事業のビジネス化

■ ロジスティック事業

- ◆ 高稼働率が続き、安定収益源
- ◆ 長期契約を推進し、長期安定化へ
- ◆ 来期、タンク増設を計画

■今後の展望のポイント

- ◆感光性材料事業は、
 - ・液晶テレビを中心とするデジタル家電の市場拡大。
 - ・旺盛な需要、高度化する技術に対応できる生産能力、技術開発力を有する。
- ◆化成品事業は溶剤回収事業の伸長。
- ◆ロジスティック事業は安定的な収益。

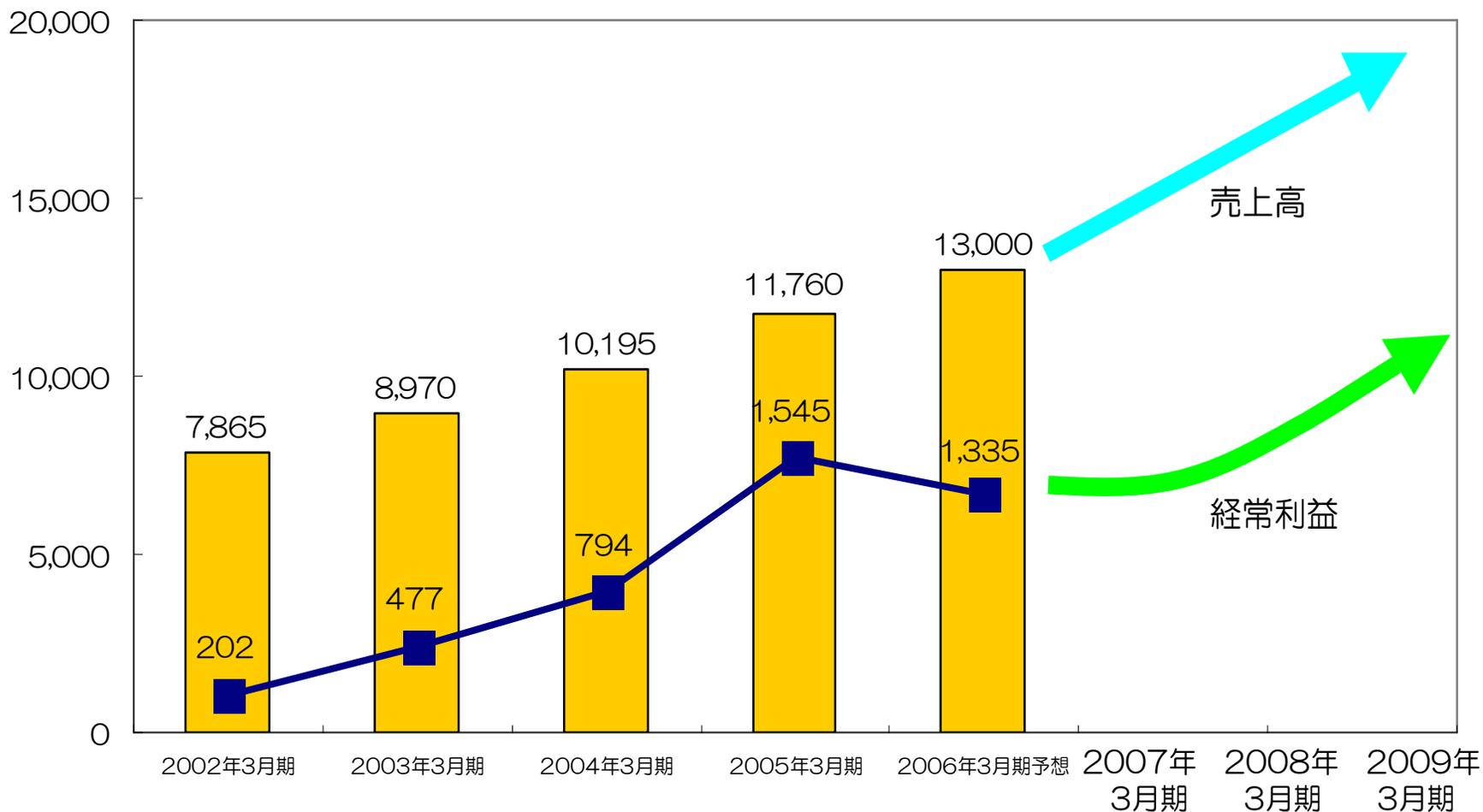
☆最終製品価格下落にともなう販売単価下落と化成品事業における中国品との価格競争激化。

☆最近2年間の大型設備投資による減価償却費の負担増加。

■ 今後の業績トレンドイメージ

売上高 経常利益

(単位：百万円)





東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性であり、いかなる確約や保証を行うものではありません。